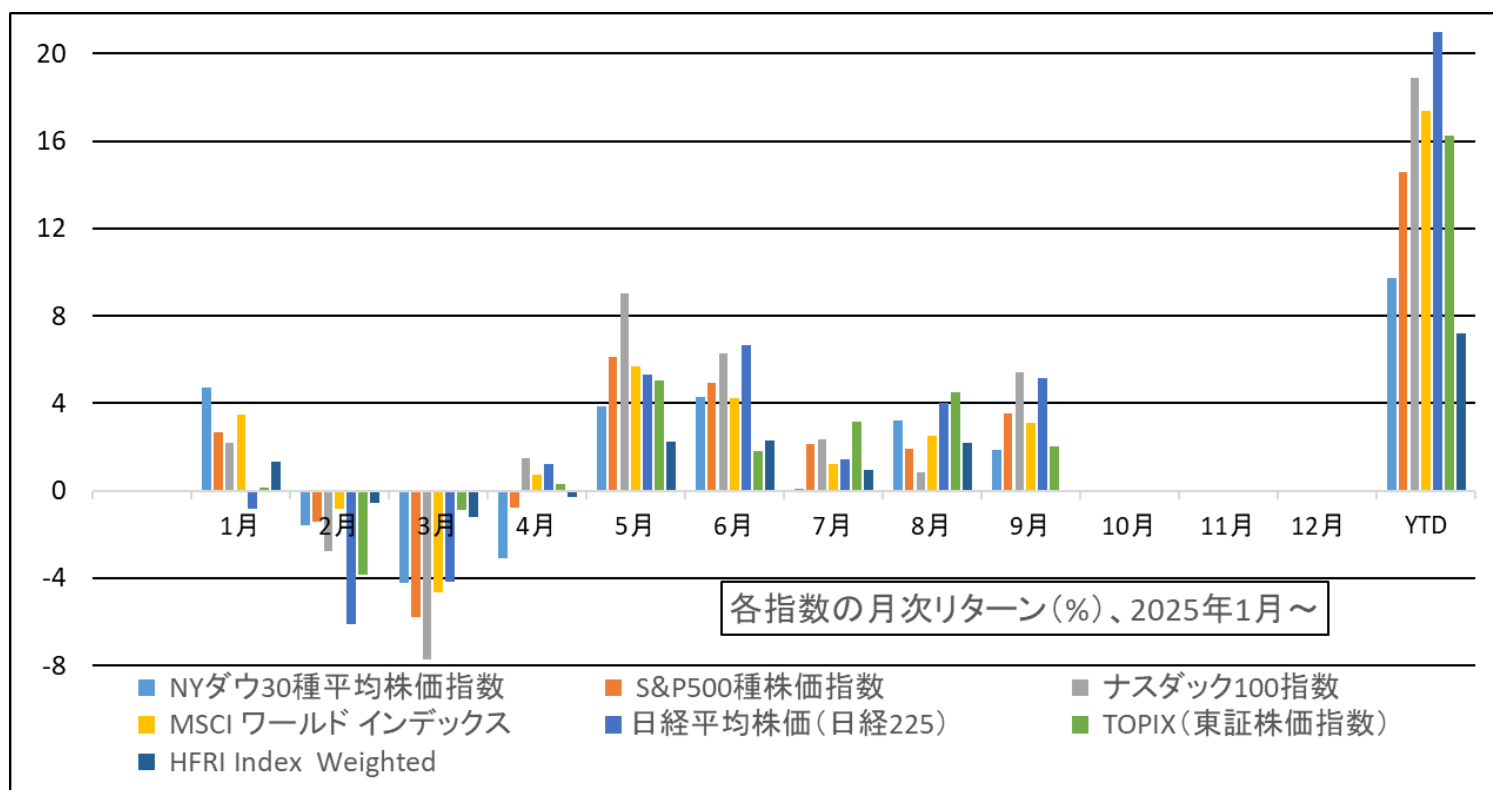


この月報は2025年9月のものですが、以下の表とグラフ及び総論は、この原稿執筆時の2025年10月7日時点でのものになります

2025年(%)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	YTD
NYダウ30種平均株価指数	4.7	-1.6	-4.2	-3.1	3.9	4.3	0.1	3.2	1.9				9.8
S&P500種株価指数	2.7	-1.4	-5.8	-0.8	6.2	5.0	2.2	1.9	3.5				14.6
ナスダック100指数	2.2	-2.8	-7.7	1.5	9.0	6.3	2.4	0.8	5.4				18.9
MSCI ワールド インデックス	3.5	-0.8	-4.6	0.7	5.7	4.2	1.2	2.5	3.1				17.4
日経平均株価(日経225)	-0.8	-6.1	-4.1	1.2	5.3	6.6	1.4	4.0	5.2				21.0
TOPIX(東証株価指数)	0.1	-3.8	-0.9	0.3	5.0	1.8	3.2	4.5	2.0				16.3
HFRI Index Fund of Funds	1.36	-0.54	-1.19	0.19	1.36	1.61	0.80	1.50					5.17
HFRI Index Weighted	1.32	-0.56	-1.17	-0.28	2.23	2.33	0.97	2.21					7.20



注：

以下のコメントは、運用会社アンタークティカ社より共有されたレポートを基に、エアーズシー証券が作成したものです。信頼できる情報に基づき作成をしておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保証するものではありませんし、将来の実績を保証または示唆するものでもありません。エアーズシー証券は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じた如何なる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。

9月は、トランプ大統領の再就任後、FRBが初めて利下げ（25bp）を実施しました。今回の決定は市場の予想通りであり、パウエル議長は「労働市場の軟化に対応した措置」と説明しています。一方で、FRB内部では意見の対立が目立ち、政治的圧力も強まっています。トランプ大統領は最大300bpの利下げを公然と求めるなど、政策をめぐる緊張が高まっています。

株式市場はこの政策転換を好意的に受け止め、S&P500が+3.5%、ナスダック100が+5.4%上昇しました。特に、オラクルの強気な業績見通しをきっかけにAI関連株が再び買われたことが上昇を後押ししました。また、「高ベータ銘柄」への選好が強まり、小型株のアウトパフォーマンスや低格付け銘柄のスプレッド縮小など、リスク選好の高まりが見られました。

地域別ではアジア市場が際立つパフォーマンスを見せ、日本、中国、韓国、台湾の主要株価指数はいずれも2桁の上昇率を記録し、年初来高値を更新しました。さらに、安全資産としての金（ゴールド）への需要も続き、9月に+12%、年初来で約+50%上昇と堅調な動きを見せています。

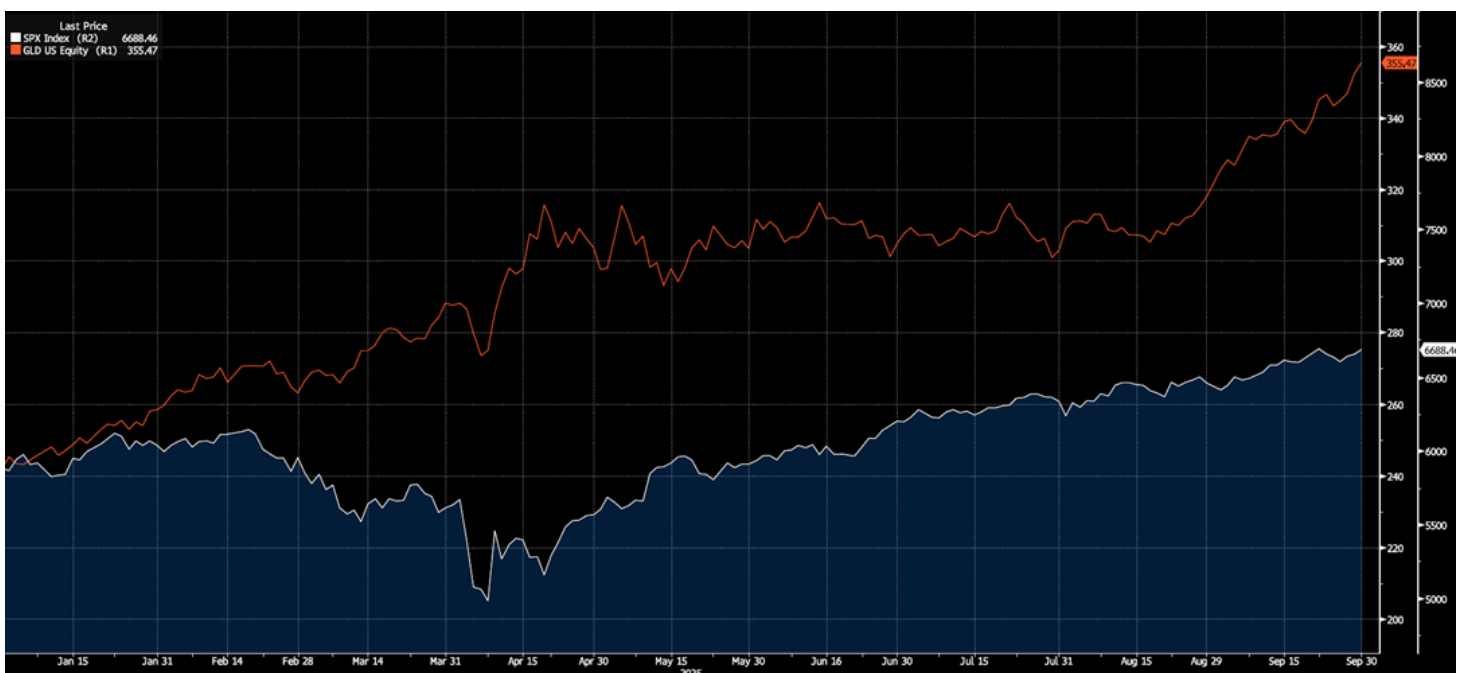
要約すると：

FRBの利下げを背景に、市場はリスク資産全般に強気ムード。

特にアジア株とAI関連株が牽引し、金も上昇基調を維持。

でした。

図1：SPDR ゴールド・シェア（GLD）とS&P500（2025年1月～9月30日）



9月のマクロ経済指標は、やや**混乱した状況**を示しました。

月の中旬には、米労働省（BLS）が過去1年間の雇用者数を**90万人以上下方修正**し、これまで「堅調」と見られていた労働市場の実態が過大評価されていたことが明らかになりました。失業保険申請件数の増加や景気センチメントの悪化もあり、市場では「金融政策は依然として引き締めすぎ」という見方が強まりました。

しかし、月末にかけて状況は再び複雑になりました。新築住宅販売が**前月比20%増**、第2四半期のGDP成長率は**3.8%に上方修正**、耐久財受注も**2.9%増加**と、景気の強さを示すデータが相次ぎました。この結果、**米2年国債利回りは一時3.65%まで上昇**し、市場は利下げ期待を一部剥落させた後、月末には再びほぼ月初の水準に戻りました。

要約すると：

労働市場の軟化を示す指標もあった一方で、住宅・GDP・耐久財受注など景気の強さを示す指標もあり、9月のマクロ経済は「軟化と堅調が入り混じる不透明な状況」となりました。

情報ソース、及び注意事項：

アンタークティカ社、HFR ホームページ、ブルームバーグ、日経新聞、トムソン・ロイター、ウォール・ストリート・ジャーナル、リフィニティブ、QUICKなどのソーシャルメディア、ウェブサイトの信頼できる情報に基づき、本資料を作成しておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保障するものではありません。また、本株式の過去の運用実績に関する分析の提供は、将来の運用成績を示し保障するものではありません。エアーズシー証券株式会社は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じたいかなる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券株式会社の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。